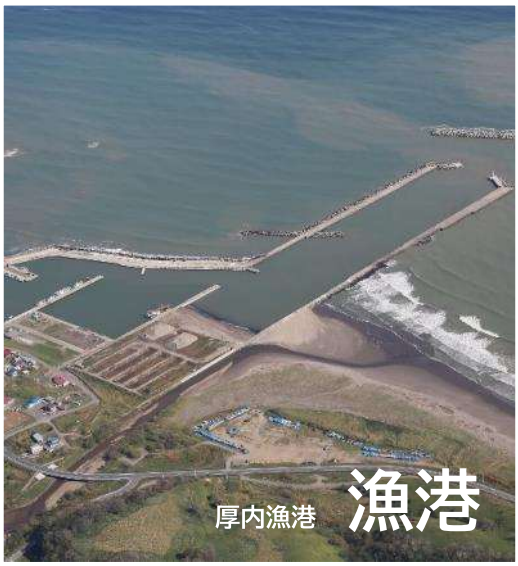

令和5(2023)年度
帯広建設管理部
事業概要

ケンセツミライ HOKKAIDO

↗ケンセツミライ
ＨＯＫＫＡＩＤＯ
詳細版

←動画で見る
ケンセツミライ

ZERO CARBON HOKKAIDO TOKACHI Subprefecture

十勝の概要 ※とかち2023より

【概況】
・十勝管内は1市16町2村の19市町村から構成。
・面積は、14総合振興局・振興局の中で最も広く、全道の13%を占め、東京・埼玉・千葉の合計と同程度。
【由来】
・十勝の名称は、アイヌ語で十勝川を示す「トカプチ」から。トカプチの意味は、「乳房(河口が2つに分かれている)」、「幽霊」、「枯れる」など諸説あり。
【あゆみ】
・明治16(1883)年に静岡県から入植した晩成社などにより開拓が始まり、以来130年余り、農林水産業の一次産業を中心に栄えてきた。
【人口】
・人口は、約32.8万人で、全道人口の6.4%を占める。このうち帯広市が約16.3万人(全道5位)、音更町約4.3万人(全道の町では第一位)と芽室・幕別町を加えた帯広圏では、25万人を超え、管内の4分の3を占める。
【気候】
・太平洋岸を除き、大陸性気候であるため、春は、フェーン性の乾燥した季節風が日高山脈を越えて強風となり、夏は、海岸部では海霧が立ちこめ気温があまり上がらないが、内陸部では比較的高温が続く。冬は寒冷高気圧により低温が続き、日高山脈で雪雲が遮られるため、降雪量は少なく、晴天の日が続く。年間を通じて、全国的にも有数の日照時間に恵まれ、年間降水量も少ない。

十勝管内図

年間日照時間(h)

	帯広市	札幌市
令和2年(2020年)	2,011.7	1,764.3
令和3年(2021年)	2,085.0	2,049.0
令和4年(2022年)	2,088.7	1,847.8

(気象庁ホームページより)

【産業】
・農業、林業、水産業などの第一次産業が盛んで、特に農業は、耕地面積が全道の2割以上を占め、畑作や酪農を中心とした大規模で専業的な農業経営が展開されており、食糧自給率1,000%を超える日本の食糧供給を担う中心的な地域。
・令和4年の農畜産物の管内農協取扱高は3,494億円で、耕種部門が約4割、畜産部門が約6割。
・管内19市町村が参画する「フードバレーとかち推進協議会」では、「食」や農林水産業を柱とした様々な事業に取り組んでおり、スマート農業の推進や「十勝川西長いも」など地域ブランド化などを実施。
・商業では、大型店の6割以上が帯広に集中し、帯広駅周辺で開催される十勝最大の食と音楽の祭典「とかちマルシェ」は約9万5千人(令和4年)が来場するイベントに成長。
・観光では、十勝川温泉のほか、農業体験、アウトドア体験、ガーデン巡り、ばんえい競馬、サイクリングなど十勝の自然や産業を活かした観光メニューが人気。豚丼、スイーツ、チーズ、ワインなど地元食材を使った食も観光の大きな魅力。管内観光入込客数は令和4年度上期で約691万人。